

組合員を幸せに 希望が持てる組織づくり



執行委員長 濱 章義

— 新年のごあいさつ —

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆さま、ご家族の皆さまにとりまして、本年が健やかで希望に満ちた一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。また、日頃より職場や地域での組合活動を力強く支えていただいておりますことに、JAM甲信を代表して深く感謝申し上げます。



昨年を振り返れば、世界は依然として大きな不確実性に覆われ続けた一年でした。世界各地で長期化する紛争や深刻化する大国間の対立、エネルギー・食料価格の高騰、そして猛威を振るう気候変動など、私たちの暮らしに直接的・間接的な影響をもたらす事象が相次ぎました。国内においても、物価上昇に伴う実質賃金の低下が慢性化しており、多くの働く仲間が将来への生活不安を抱えています。こうした不安定な情勢下だからこそ、労働組合が果たすべき役割は一層大きく、連帯の力が問われていると強く感じています。

そのような中、2026年春闘において、私たちJAM甲信は、すべての組合員の生活を守り、将来への不安をできる限り多く取り除き、生活向上を実感でき、格差拡大に歯止めをかける賃上げに力を注いでいきます。とりわけ、中小企業で働く仲間の賃上げを確実なものとするのは喫緊の課題であり、地域の産業と雇用を守るためにも不可欠です。企業の持続的な成長と、私たちの豊かさの向上は決して相反するものではなく、むしろ両者が調和してこそ、より力強い地域経済の発展ができると思っています。地域経済発展の実現に向け、経営側との建設的な対話と粘り強い交渉ができるよう、全力でサポートして参ります。

私たちは、基幹労連とともに2022年に村田享子参議院議員を、2025年には郡山玲参議院議員を誕生させることができました。2人の力を発揮させるのは、私たち組合員一人ひとりの声です。私たちの声が政治を動かし、確かな政策実現へと繋がっていきます。働き方そのものが多様化し、技術革新が急速に進む中で、職場の環境整備や人材育成のあり方も大きく変わりつつあります。安全で安心して働ける職場づくりは、すべての労働組合にとっての基本であり、JAM甲信にとっても重要なテーマの一つです。労働災害防止、メンタルヘルス対策、長時間労働の是正、ハラスメントの根絶など、これら一つひとつに丁寧に向き合い、組合員が誇りをもって働き続けられる環境を、国の仕組みづくりと現場の取り組みの両輪で築いていきたいと考えています。

そして何より、私たちの運動の原点は「組合員一人ひとりの幸せ」にあります。賃金や労働条件の改善はもちろん、仕事と生活が調和し、家族や仲間との時間を大切にできる暮らしを実現していくことこそ、労働組合の使命です。職場の声に耳を傾け、地域社会とともに歩み、未来を担う若い仲間が希望を持てる組織づくりを推進していきます。

本年もJAM甲信は、組合員の皆さまと共に歩み、共に考え、そして共に未来を切り拓いていきます。変化の激しい時代だからこそ、連帯の力を発揮し、誰もが安心して働き、笑顔で暮らせる社会の実現のため、全力で取り組んでいく所存です。本年も組合員の皆様のご理解ご協力ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

共済推進 全体会議

不安を解消 保障の見直しで！

JAM甲信は、2025年11月8日（土）に諏訪市のホテル紅やで51単組・支部の単組代表者と共済の事務担当者など、全体で103名が参加し、JAM甲信・共済推進全体会議を開催した。

第1部の全体会議でJAM甲信共済推進委員会の櫻井副推進委員長は、「近年では、自然災害の発生頻度も高まっている。中でも、大雨による浸水被害などは全国各地で発生している。自身とご家族を含めた、万一の災害への保障について見直しをして頂きたい。その上で、組合員とその家族の不安を解消し、安心して生活できるようにすることを目指して、単組での一層の取り組みをお願いしたい」と挨拶した。次に佐野事務局長よりJAM共済の加入・給付の状況について説明がされた。

第2部の分科会においては、提携共済推進委員会では、昨年度のキャンペーンの表彰を行うと共に、JAM個人医療共済の推進強化とマイカー共済の推

進を中心としたキャンペーンと、単組役員の保障点検を展開して、更なる保障の充実を図っていくことが確認された。また、自家共済推進委員会においては、同じく昨年度のキャンペーンの表彰を行い、新年度のキャンペーンの周知と単組役員の加入促進をはじめとした共済活動の更なる展開を図っていくことが確認された。



「保障の見直しで生活の安心を」と挨拶する櫻井副推進委員長

JAM甲信 単組役員研修会

心構え・賃金・経営分析を学ぶ

JAM甲信は、2026年度の単組役員研修会Ⅰ、Ⅱを、岡谷市のライフプラザマリオで開催した。

研修会Ⅰは2025年10月4日（土）に「組合役員の心構えと賃金について」と題して開催し、21単組・支部から40名が参加した。前段の「単組役員の任務と心構え」では小林組織部長が講師を務め、労働組合の意義と労働三法、組合活動の3本柱、執行部役員の任務について説明した。後段の「賃金について」では佐野書記長が講師を務め、賃金の定義と



単組役員の心構えを確認し合う（単組役員研修会Ⅰ）

意義、平均賃上げ要求と個別賃金要求の違いの他、春闘交渉における要求の作り方について説明した。参加者からは「組合員との対話やアンケートなどで、意見を吸い上げて活動に活かしていきたい」「組合役員として賃金に対する知識を得られたこと、グループワークで様々な話が聞けて良い機会となった」などの感想があった。

研修会Ⅱは「経営分析のすすめ」と題して同年11月15日（土）に開催し、18単組・支部から29名が参加した。佐野書記長が講師を務め、企業の財務状況を平時より把握しておく重要性を説明した。財務諸表の見方を説明し、ある企業の財務諸表を題材にどのような経営状態にあるのか？を参加者それぞれが分析し、グループワーク・発表を通じ理解を深めた。

参加者からは「会社の経営状況を把握して、今後の取り組みへ活用できるようにしたい」「2026年の春闘でも必要な知識となるため、この時期に学ぶことができて良かった」などの感想が寄せられた。

JAM甲信ホームページにも最新情報満載！
<https://www.jamkoushin.com>

JAM甲信は、2025年11月15日（土）に岡谷市のライフプラザマリオにおいて、広報担当者を中心に3単組3名が参加して、広報セミナーを開催した。

本セミナーは初級編であり、午前中は講師の小林副書記長から写真の撮り方、文章の書き方とその見出しの作り方、取材の仕方や構成に至るまでの、広報紙作成の基本的手法が説明された。講義では、「記事を書く上で5W1Hは基本であり、その中でも



広報紙制作に取り組むセミナー受講者

“誰が”“どうした”を意識して、まずは記事を書いてみよう」と構成を考えて文章を書く重要性を説明した。その後、合同演習として5W1Hに沿った文章構成や新聞記事を用いた見出し作成の演習を行った。

午後は、3つのテーマで受講者それぞれが広報紙を作成した。1つ目は自身が受講した「JAM甲信広報セミナー」、2つ目は参加者同士で取材をし合い記事にする「参加者紹介の記事」、3つ目は別フロアで同時開催していた「単組役員研修会Ⅱ・経営分析のすすめ」とし、実際に取材も体験した。取材では、最初は戸惑う様子も見られたが、講師や参加者へのインタビューを行い、研修会の様子を記事にまとめた。

受講者からは「文章の構成や読み手にとって読みやすい広報づくりが大切だと理解できた」「記事を書くうえで、文章の構成などをあまり意識していなかったのが学べて良かった。今後、活用できると思う」などの感想が寄せられた。

JAM甲信は、2025年11月22日（土）に岡谷市のライフプラザマリオで、18単組33名の単組役員を集め、2026年春闘研修会を開催した。近年、過年度物価上昇分を踏まえた要求作りと交渉を方針に掲げていることや企業によっては決算月を前倒したことから、従来より早い春闘の取り組みが求められている。このことから、昨年に続きこの時期に春闘研修会を開催している。

講師の佐野書記長は「2025春闘はJAM発足以来、最高水準の賃上げを獲得できた。一方で、大手と中小の規模間格差は、さらに拡大した。2026春闘は、組合員との対話、あるべき賃金水準、価値を認め合う社会への実現にこだわり、物価上昇に負けず生活向上を実感でき、様々な格差を是正する賃上げに取り組む必要がある。JAM甲信としても、2014年春闘からの12年間の累計で4万円を超える改善分の獲得を実現した単組がある。職場討議で組合員の声を拾い、要求することが重要である」と説いた。

その後のグループワークでは、改善分と是正分の

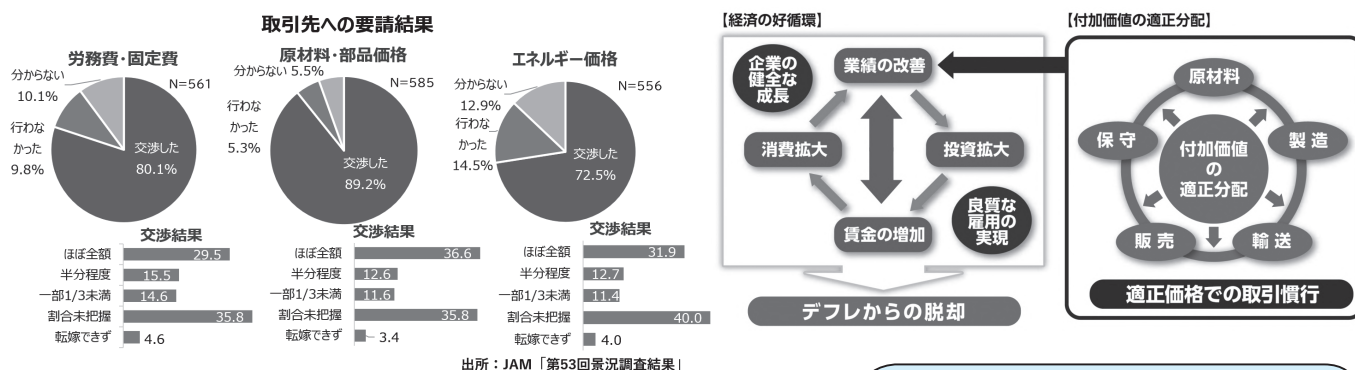
見出し方について確認し合った。参加者からは、「春闘情報をいち早く入手できる良い機会となった」「要求根拠などをどのように考えるか理解できた。春闘に活かしていきたい」「今回のデータなどを基に要求案をしっかりと組み立てて、要求をしていきたい」などの感想が述べられ、有意義な研修となった。



改善分と是正分の見出し方の考え方を深める

2026春闘 「価値を認めあう社会へ」を推進 着実な「価格転嫁」で賃上げ原資の確保！

価値を認めあう社会への実現に向けて、労務費、原材料費、エネルギー価格を含めた着実な価格転嫁が必要です。さらには、サプライチェーン全体で適切な価格転嫁を定着させることも重要です。



価格転嫁の成否と賃金改善

価格転嫁と賃金改善額	①価格転嫁できた (半分以上転嫁できた)	②価格転嫁できない (1/3未満)	差 額
賃金改善額（単組数）	9,225円（191）	7,394円（56）	1,831円
平均賃上げ額（単組数）	13,198円（235）	11,052円（71）	2,145円

出所：JAM「第52回景況調査結果」と「2025年春季生活闘争状況報告No.19」から作成

— お知らせ —

■JAM甲信 第27回地方委員会 政策制度討論研修会

日 時 2026年1月24日（土）10時から
場 所 ライフプラザマリオ（岡谷市）
多くの皆さまのご参加をお願いします。

《内部討議資料》

郡山玲 参議院議員 活動報告

2025年11月27日（木）厚生労働委員会 「労働時間規制の緩和検討」の指示について

郡山議員は、高市総理から指示があった「労働時間の緩和検討」について、緩和ありきで進めるべきではないと指摘した。

上野厚労相は、労働時間規制に関して、上限規制のほか割増し賃金や勤務間インターバルなどの様々な制度があり、それらを踏まえて、現場の働き方の実態やニーズなども考慮した上で、しっかり議論をする必要があると答弁した。

その他、「労働時間規制の緩和検討」に至ったデータの存在について、最低賃金を巡る課題についてなどを質問した。



厚生労働委員会で初質問をする郡山議員



病院の機能後退を訴える郡山議員

2025年12月4日（木）厚生労働委員会 医療法改正に関する政府の方針について

郡山議員は、今回の改正が「効率化」の名のもとに、地域の中核病院の機能を後退させ、国民の医療アクセスが困難になるなどの懸念点があるのではないかと質問した。

上野厚労相は、人口減少や医療ニーズの変化を見据え、医療資源を有効活用して持続可能な医療体制、医療提供体制を構築することが目的であり、効率化と医療を守る両面があると答弁した。

その他、マイナ救急と医療DXについてなどを質問した。